



Peace Winds Japan

ピースウィンズ・ジャパン

(国際協力 NGO)

「人に捨てられた命が人を救う」 災害救助犬・夢之丞(ゆめのすけ)

近年、飼い主の飼育放棄などの理由により殺処分となる犬は、国内で年間2万頭を超える。夢之丞もその一頭になる運命だった。しかし、2010年にピースウィンズ・ジャパン内で発足した“殺処分ゼロ”を訴える「ピースワンコ・ジャパン」プロジェクトにより、生後三か月の夢之丞は殺処分寸前で保護される。保護当初こそ、夢之丞はひどく脅え、心を閉ざしていた。それでも、トレーナーの粘り強いケアで次第に犬らしさを取り戻していき、約半年後には「人に捨てられた命が人を救う」という、厳しくも意義のある新たな道への挑戦を開始する。様々な分野で活躍する使役犬は、その多くが特定犬種、血筋によるものが大きい中、夢之丞は過酷な訓練を経て災害救助犬となる。2015年4月

25日に起きたネパール地震直後に、初の海外災害現場へと出動した夢之丞は、5日間の捜索期間で不明生存者の発見こそ至らなかったが、多くの被災者から感謝の念が送られ、夢之丞の物語は各国メディアを通じて世界に配信されて大きな反響を巻き起こした。ピースウィンズ・ジャパンはこれまで、殺処分される可能性のあった500頭あまりの犬を保護し、半数以上を譲渡・返還しているほか、一部を災害救助犬や福祉施設などを訪問するセラピー犬など人の役に立つ犬として、育成する活動を行っている。殺処分を待つ犬を救い、災害救助犬として訓練し、現場で捜索・救助を行うピースウィンズ・ジャパンの挑戦と貢献活動を讃え、その代表として夢之丞に贈る。

特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンは、紛争地や自然災害地での迅速な緊急人道支援、復興・開発支援などを行う国際協力NGO団体。1996年に設立され、約20年の支援実績や高い専門性をもとに、これまで世界26の国と地域で支援活動を実施してきている。夢之丞(ゆめのすけ)は、2010年生まれの災害救助犬。2010年11月、広島県動物愛護センターで殺処分寸前にピースウィンズ・ジャパンにより保護される。通称ドリームボックスと呼ばれるガス室から生還したこの子犬は、夢と希望を託す意味を込めて「夢之丞(ゆめのすけ)」と命名された。現在は、2011年秋に仲間に加わったゴールデンレトリバーのハルクと共に、国内外の災害地で捜索活動を行っている。初めて出動した、2014年8月20日の広島土砂災害の現場で行方不明者1名を発見。その後もフィリピン台風(同12月)、ネパール大地震(2015年4月)、台湾台風(同7月)、茨城県豪雨(同9月)のそれぞれの被災地へ出動している。

